

相武台神社にて元旦祭を行いました

令和3年1月1日(金)相武台神社境内にて、新たな良き年を祈願する元旦祭の神事が執り行われました。

早朝から初詣の方々が列をつくる中、いったん中断していただき、神前にて座間神社の宮司による祝詞奏上を祈願するご祈祷のあと、氏子代表者より関連団体の代表者らと順に玉串拝礼を行い式典が終わりました。その後、神殿から広場に場所を移して、委員全員で新型コロナの収束と新年の多幸を願いながらご神酒を拝載しました。



そんな中、参拝者の列もさらに拡大しましたが、除菌水の設置と間隔をとって一方行に並んでいただき、スムーズに安心してお参りしていただきました。

氏子委員によるお焚き上げを実施しました

相武台神社恒例の伝統行事である「どんど焼き」は、コロナ感染症の拡大による緊急事態宣言の発令にともない、今年は残念ながら中止となりましたが、1月10日(日)相武台神社氏子委員の手による「お焚き上げ」のみが行われました。

例年と違い、訪れる人もまばらで「松飾り・しめ縄・お札」など納め処のテントからシートを引き出し、氏子委員の手で細かく分解し、資源ゴミと燃焼物に選別して焼却物を極力少なくし、炉の中央に積み上げてお焚き上げの準備ができました。

やがて神社氏子会長「池上 宏」によるお清めの儀式につづき火入れが行なわれました。炎の勢はいつときでしたが、念のため消防車を待機させ消防団員の手で慎重に焼却していただき、お焚き上げは無事終了いたしました。



地区社協主催「親子ふれあい体験教室」を開催

相武台地区社会福祉協議会「会長 加藤三郎」では、2月7日(日)相武台老人憩の家において、小学生とその保護者を対象とした「紙飛行機&バルーンアート」の制作体験教室を開催しました。《参加者が少数のため使用許可を得て、室内での開催に変更しました》

当日は朝から好天気でしたが、開始時間が過ぎても集まらず、やっと数名の家族が来てくれました。早速、受付で感染予防策や名前を登録し間隔を広くとって開始。「松下孝治先生」の話術ときめ細かな指導に加え、保護者やスタッフのサポートもありましたが、膨らませてねじるのが難しく、それでも色とりどりの可愛い動物が沢山でき上がりました。



紙飛行機の制作では、定規やホチキスを使い丁寧に折ることでバランスの良い飛行機を作ることができ、制作後は、皆で滞空時間や飛行距離を競い合って大はしゃぎで飛ばしていました。

帰りには、お弁当やお菓子・おもちゃなど沢山のプレゼントもあり、ひときわ目を輝かせながら笑顔で帰宅していただきました。